

第2回研究大会のサイン計画について

阿南統久（茨城県立つくば工科高等学校）

塩野雅代（茨城県立下妻第二高等学校）

津賀宗充（茨城県立銚田第一高等学校）

1. はじめに

前回大会同様に今大会にサイン計画を導入する目的は、大会全体のデザインを統一することで、参加者の利便性を向上させることである。具体的には、次のような点に配慮することになる。

- 表示内容…「わかりやすい」「覚えやすい」を原則
- 形状・素材…「デザインの統一性」「景観への配慮」を重視
- 配置…「安全性」「連続性」を十分に考慮

第1回大会のサイン計画を担当した武蔵工業大学（現：東京都市大学）環境情報学部小池ゼミは次の3要素に整理した。

- 誘導（ナビゲート）
 - 網渡り型サイン（正門→建物及び建物内）
 - 一望型サイン（会場廊下）
- スケジュール
 - 今（現在）がわかる会場サイン←赤いセロハンで時間帯を強調
 - リーフレット←会場サインとの連動（効果的な色の使い分け）
- コミュニケーション
 - 一言プレート←ウィットの効いた一言
 - コミュニケーションパネル
 - ネームカード←参加形態による色分け、裏面の活用

これを受けて本大会では、会場となる筑波学院大学情報コミュニケーション学部情報メディア学科山本ゼミ（デザイン専攻）に、サイン計画を依頼した。

2. 依頼した内容

クライアント（我々）の大会概要プレゼンテーション（4月16日）をもとに、山本ゼミでは4年生21名を中心にワークショップを繰り返し、大会イメージを共有することから始めた。今回は「分かりやすさ」と「機能性」を重視し、参加者がスムーズに移動でき、ストレスなく次の行動が見えるサイン計画を目指すこととした。その上で、大会の基本コンセプトを「SMART」とし、大会ロゴマークの制作及び企画書の作成にあたった。この段階でクライアントに対して2回のプレゼンテーション（5月28日及び7月2日）を行い、基本方針を決定する。

その後、21名のうちのコアなメンバーを中心として、2・3年次生4～5名とともに制作物の作成に取り掛かる。

今大会で依頼したのは次のものである。

- リーフレット
- 構内サイン（サイン塔、掲示物等）
- 大会資料（ナビゲーター、しおり）
- 名刺ホルダー
- 自分たちの活動を報告するブログ

3. 彼らの活動の様子

山本ゼミの学生の活動については、ブログ（<http://design-iroiro.jugem.jp/>）にて発信している。また、正面入口の大型テレビにおいても、活動の様子を放映している。

今回は、彼らがプレゼンテーションにおいて作成したスライドをもとに、彼らの成長過程を報告したい。そのうえで、大会運営に学生の力を借りることのメリット及び注意点について考えてみたい。